



宇宙意識の叡智を我々に伝える先人

Lyssa Royal
リサ・ロイヤル

バシャールから始まるチャネリングの歴史に、その当初から名前を刻み込むリサ・ロイヤルさんが2007年1月に来日しました。宇宙意識の真髄を、柔らかい語り口で伝えてくれる彼女に、これから訪れるアセンションとは何なのかということをお教えしてもらいましょう。



Lyssa Royal

PROFILE

米国アリゾナ州フェニックスに在住。マサチューセッツ州立大学ボストン校で心理学を学ぶ。
宇宙意識、アセンションに関するベストセラーを数多く上梓。
最近では気功のインストラクターなど活躍の場を広げている。

幼少期からの「別次元」への目覚めが導いた現在

2012年12月21日には、マヤ暦として知られている暦の大周期が終わりを迎え、これまでとは全く異なる世界へ突入すると考えられています。その時期に私たちに起るのがアセンション。キリスト教の影響の濃い欧米では、ヨハネの黙示録で記される「空中擧げ」のようなビジュアルイメージを連想するケースもあるようです。というのもアセンションとは本来「上昇」という意味で、さらに、「THE ASCENSION」と大文字で書く「キリストの昇天」を意味するからです。

しかし、現在において「アセンション」という言葉は、単にキリスト教的な文脈でのみ語られるのではなく、人類が育んできた宗教の枠組みすらも超えた宇宙的な計画のニュアンスで使われ、いわゆる意識の次元上昇を指しています。また、それにとってもなつて地球人類全体が直面することになる、かつてない大変化のことも意味しています。

チャネリングという言葉が誕生した草創期から、私たちに叡智と愛の溢れる言葉を届け続けているリサ・ロイヤルさんは、アセンションに関する著書も多く書いています。そんなリサさんのスピリチュアルな「目覚め」について伺ってみました。

「子どものころから、いわゆる見えない次元にとっても興味を持っていました。当時は幽霊もよく見ていました。また、UFOにはずっと特別な興味がありました。ただ、子どもの頃はUFOについての直接的な体験をしたわけではありません。最初は1979年だったでしょうか。わたしがちょうど大学に入つて心理学を学び始めた時期、家族と一緒にUFOを見ました。スピリチュアルな世界への探求はその時から始まったのだと思います。その時UFOを見てしまったことで、私は宇宙の事をもっと知りたいと強く思うようになりました。そのころ、大学で学んでいたのが催眠術です。ストレスマネジメントのために自己催眠を行っていたのですが、催眠状態に入るとさまざまなコミュニケーションを受け取るようになったのです。UFOにとっても興味がある人が催眠状態になったとき、何が起るかという想像がきますね。現在につながるかさまざまな意識の原型はこの時期にあるといえるで

しょう。その後、1984年ごろにとっても重要な夢を見ました。インド人の少年が夢の中に現れ、私の全てのチャクラに触れていたのです。そして「あなたは今からチャネラーとなる」と言われたのです。正直いうと、そのときはちょっと怖い感じがしました。その後、幾多のシンクロロジイ（共時性）に導かれ、リサさんはひとりのマスター（師）に出会うことになりました。そのマスターはUCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）の学者たちとも知り合いで、心理学を勉強されている方でした。

「必要なもの」が私を見つける

宇宙意識と触れ合うことで、星々の叡智をわたしたちに伝えてくれるリサさんは、より完全な自分自身に気付くまでの道のりを手助けしてくれるガイドのような存在です。

「わたしは宇宙がどういうものなのか、わたしたちはどこから来たのかをずっと知りたいと思っていました。その結果が現在のワークになっているのだと思います。何か特別な事を行おうと思わなくとも、行うべきワークの方がわたしを見つけてくれるという言いかたの方がこのワークにはふさわしいでしょう。わたしの探求は幼少のころから変わらず、人間は星とつながりを持つているのかどうかというものです。その問いが動機となつて、わたしのワークは進化しています。それは宇宙意識に触れることで、星々の教えを地球に持つてきて、私たちの生活に取り込む、生かしていくことです。人間は精神的に進化できる、と全身全霊をもつてわたしは信じています。わたし自身も進化し、周囲の人々も進化してきました」

その後、リサさんは頻りにUFOを見るようになり、1985年くらいから導かれるように公の場でチャネリングをすることになりました。

「日本に始めて来たのは1991年のことで、それ以来、日本はわたしの一番お気に入りの場所です。その理由のひとつは、わたしの魂が日本を非常に懐かしく思っているということ。そしてもうひとつは日本の生徒の方々がとても真面目で誠実なことです。学びたい、成長したいと心から思っていて、それはエゴから来ているものではないように思います。日本に来て、真摯な成長の場に居合わせられること、それがわたしの非常に大きな喜びであり、私自身の成長にもつながついています」

リサさんの行うグループワークは、アセンションと極めて近いところに存在します。あるいは、リサさんのワークそのものがアセンションの予行練習のようなものなのかもしれません。

「わたしのアセンションの定義は他の方とは違うかもしれませんが。アセンションというと人類が他の場所、星々へと瞬間に移動するようなイメージを持たれている方もいます。けれど、わたしのアセンションの定義は「より完全な自分になる」ということです。人間としての自分とハイアースルフとの間に存在する垣根が無くなると言えればよいでしょうか。わたしたちは地球にいながらにして覚醒していきます。それは自分の中に全てがあることを理解していくこと。自分の中に全てがあることを思い出して行くという体験になります。わたしの願いは、このワークにおいて、人々が自分自身を信じて、自分の中に全てがあることを理解していくこと、そして、自分の中に全てがあるということを思い出し、欲しいということなんです」

リサさんは2006年の12月に2年間のヨガのマスターティーチャーコースを終えられたばかり。リサさんをチャネラーへと導いたインドとのつながりは、今、再開したのだということもできます。

リサさんはこう語ります。

「夢の中でインド人の少年との出会いから20年以上を経て、わたしが与えた教え、わたしが受け取った教え、その全てがこれから統合されていくのだと思っています」

大切なのは星々の世界へ逃げるのではなく、星々の教えを地上で生きることなのではないでしょうか。

日本人の霊性、そして 女性と男性の霊性の違い

定期的に来日するようになってから16年。日本という国に対して、リサさんの魂は懐かしさを感じていると言います。

それでは、リサさんの感じる日本とはどういう霊性を持った国なのでしょう。

「日本という国は、とてもとても古い歴史を持つ国です。日本の仏教は古い時代にインドからやって来ましたが、現在でも生き生きと実践されています。そのため、日本のエネルギーフィールドはいつでも聖なるものになっています。また、神道の起源はさらに深く歴史をさかのぼります。わたし個人は、神道の最も古い伝統は星からもたらされたものだと考えていますが、神道のエネルギーもまた日本のエネルギーフィールドを聖なるものにしてくれています。一方で、日本はアジアにおいて最も西洋化された文化を持っています。日本という国は、入ってきたエネルギーが絶えることなく生き続けるところであり、西洋と東洋のエネルギーが統合されている場所でもあります。ですからわたしは、日本という国の持つ霊性がアセンションにおいてとても重要な役割を果たすと考えています」

一般的に東洋のエネルギーは受容的・女性的とされ、西洋のエネルギーは革新的・男性的という言い方をされることがあります。その意味で、日本の霊性とは陰(女性エネルギー)と陽(男性エネルギー)が融合した特別な質を持つものであるのかもしれない。

それでは、実際の男性と女性において、ジェンダー(性差)による霊性の違いはあるのでしょうか。

「そもそも肉体とは魂にとつて、つかの間のよりどころでしかなく、魂そのものには性別はありません。そこで、わたしたちの肉体の性別によって、魂のエネルギーの違いを感じることはありません。ただし一般的には、女性エネルギーの方が受容的だといえます。そして男性の方が、革命的なことを起こすのが得意なようです。社会的な制約が多いことが影響しているのか、多くの男性にとつて、女性的で受容的なエネルギーを受け入れることは難しいようです。しかし、それは物事の本質的なポイントではありません」

2000年を境にエネルギーの 変化が起き始めています

男性と女性の霊性に関して、とても興味深いことが、現在もわたしたちの目の前で起こり続けている……リサさんは言います。

「完全なる自分になることを目指すわたしのワークでは、『受け取る』ということがとても重要です。そのため、男性の方が目的を達成することが困難なように感じるケースがあります。しかし、この点にかんじて面白いことが現在進行形で起きています。わたしは80年代からワークを行っていますが、80年〜90年代前半までは女性の生徒が8割、男性の生徒が2割という状況が続いていました。つまり、男性がスピリチュアルな集まりに参加することが非常に珍しい時代だったのです。それが、1999年から2000年にかけて、画的に変わっていききました。今では、ワークを行うと女性と男性の割合は均等です。とても面白いことに、ほぼ同時期に、世界中で同様のことが起きています。その中でわたしが非常に面白く感じているのは、本来、男性は女性と同じくらい敏感だということですが、現代の文化において、男性は感受性を女性的であると尊重しないようになっていきました。それが壊れかけてきているという証なのかもしれません。われわれ人類は、古代の時代から男性的なエネルギーと女性的なエネルギーが交互に、それぞれ強く影響する時代を生きてきました。アセンションに至る最後の数千年は男性的エネルギーが象徴する時代であり、それは宗教などにも色濃く反映されてきました。例えば、仏教の初期段階では、女性が悟りを得ることは難しいとされていましたね。それは、宗教的な権威者などが利用したことなのでしょう。わたしはイエスにしろ仏陀にしろ、彼らが女性をないがしろにするようなことは無かったと思います」

2005年6月、リサさんが日本のグループを連れて沖縄を訪れたとき、時代によって男性的なエネルギーと女性的なエネルギーが交互に、それぞれが強く影響する時代を繰り返してきたという確信を得たそうです。

「日本人のグループを沖縄に連れて行ったとき、現地のガイドの中にわたしたちを案内してくれた人

たちがいたのですが、その内のひとり、男性の方がとても丁寧な私を敬ってくれたのです。不思議に感じたので理由を尋ねると、沖縄では女性のチャネラーはヒエラルキーのトップにいるのだと教えられてきたというのです。私はとても驚きました。そして久高島の聖地巡りをしたとき、ひとりの女性のシャーマンと会いました。この方の家系では代々何百年もシャーマンを育てるトレーニングしてきたそうです。前時代の海底遺跡が眠る沖縄では、女性のエネルギーが強く働いていた時代の名残がとても多くあったように思います」

女性エネルギーを象徴する シャーマンに起きた変革

ただり着くべき場所へと、私たちはシンクロナシティによって運ばれ、そしてただり着くべき魂の目的への気づきへと導かれます。

私たちは自然と、アセンションの場合と誘われていくことを感じられるとリサさんは言います。

「久高島のシャーマンがインエーションを受ける浜辺でわたしたちのグループがインエーションを受けたとき、女性のシャーマンが面白いことを言いました。何年も前、西洋人が久高島のことやその地のシャーマンの事を知らなかったときに彼女は祈りをしたそうです。それは『わたしは西洋の方々を受け入れる準備ができました』というものでした。すると、とたんにわたしのような西洋人が来るようになったと言っています。わたしたちのグループが最初か2番目か、という感じだったと思います。女性エネルギーを象徴する彼女のような女性シャーマンが、わたしたち西洋人のエネルギーを受け入れる準備ができたということが、とても興味深く感じられました。これから起きようとしている、あるいはもう起き始めている新しい時代を指し示しているように感じました」

チャネリングによって受け取る深遠な星々のメッセージを、生活の中に取り込んでいくことが重要だとリサさんは繰り返します。

わたしたちが真摯に成長することを願って日々の生活を過ごして行くこと、それらありふれた日常の全てがアセンションに繋がって行くのだということ。リサさんはチャネリングを通して、そして自分自身の言葉を通して教えてくれます。



取材協力/
株式会社ナチュラルスピリット

<http://www.naturalspirit.co.jp/>